



「水とみどりの森の駅」～くらがり溪谷～

case
2

岡崎市(愛知県)

水・みどり・生きものの豊かな里川のまちづくり

PDCAサイクルで重点施策の進捗管理

愛知県のほぼ中央に位置し県内有数の中核市である岡崎市では、矢作川、乙川の清流が、魅力ある景観を醸し出しています。乙川の上流の旧額田町では古くから林業が盛んで、下流の旧岡崎市は文化・経済の中心地として栄えてきました。2006年にその2市町が合併したことを契機に、2008年に「岡崎市水環境創造プラン」が策定され、将来に向けた水環境を創造する取組が始まりました。

「岡崎市水環境創造プラン」は、環境、治水、利水の面から岡崎市の水環境を総合的に見て、行政、市民、学識経験者など意見を出し合い、将来の望ましい水環境のあり方をマスタープランとして取りまとめたものです。また、それらを実現するための具体的な行動をアクションプランとしてまとめ、目標年次を定めて進捗管理を行っています。

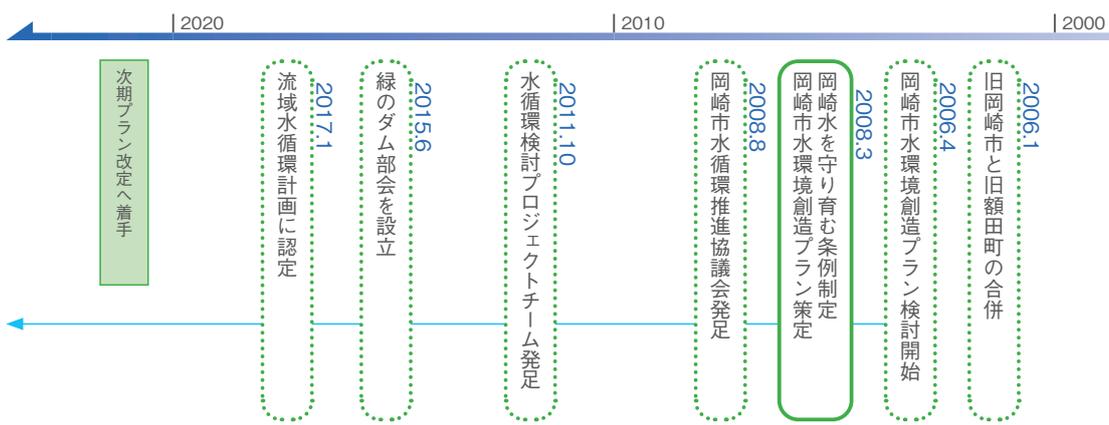
岐阜県
愛知県
岡崎市
静岡県

Profile

【課題】	総合的取組
【主体】	岡崎市
【連絡先】	岡崎市 環境部 環境政策課

これまでの取組

上流域の山林荒廃や耕作放棄地の増加など
下流域の都市への人口や産業の集中による水
質汚濁など



計画の策定経緯

乙川の下流域に位置する旧岡崎市は、西三河地方の拠点都市として発展してきました。しかし、高度経済成長期の都市への人口や産業の集中によって、川やため池の水が汚れたり、川の流量が減ったり、水辺に親しみにくくなったりしてきました。また、乙川の上流に位置する旧額田町は、豊かな水と緑をもち、これらに基づく林業や農業が盛んでしたが、働き手の減少や高齢化で山林の手入れが間に合わなくなったり、農業が営まれない田畑が増えたりしました。このような状況の下、2006年1月1日に旧岡崎市と旧額田町が合併し、乙川の上流域と下流域がすべて岡崎市に含まれることとなりました。これを機に、行政、市民、学識経験者などで意見を出し合い、環境、治水、利水等、岡崎市の水環境を総合的に見て、将来の望ましい水環境のあり方と、それを実現するための取組をまとめたのが「岡崎市水環境創造プラン」(以下、「プラン」といいます)です。プランは、岡崎市全域を対象とし、身の回りのいろいろなことのうち「水」に関係のあること全てを含みます。また、横断的な連携の下、将来の岡崎市の水環境のあり方について、

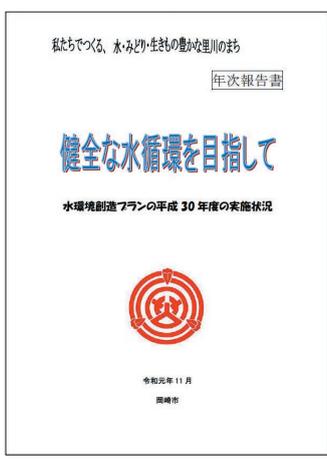
共通の姿を描いています。

多様な主体で進める体制づくり

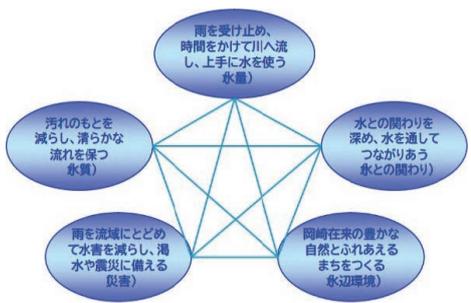
岡崎市では、プラン策定のために「検討委員会」、「行政部会」、「乙川部会」、「市民懇談会」を設置して検討を進めました。プラン策定後は進捗管理を行う主体として、学識経験者、関係団体、公募市民などで構成される「岡崎市水循環推進協議会」を設立しました。

基本方針

プランの基本方針は、「水量」、「水質」、「災害(洪水・渇水)」、「水辺環境」、「水との関わり」の項目別に設定されていますが、それぞれの項目は独立しているものではなく、互いに密接に関連しています。岡崎の水



年次報告書の表紙



基本方針の関連イメージ



環境を良くしていくためには、全ての基本方針に沿って総合的に取組を進めていくことが重要です。PDCAサイクルの実現を目指して重点施策毎に実施状況や課題を確認し、年次報告書を作成して翌年の活動に活かしています。

流域マネジメント、ここが「鍵」

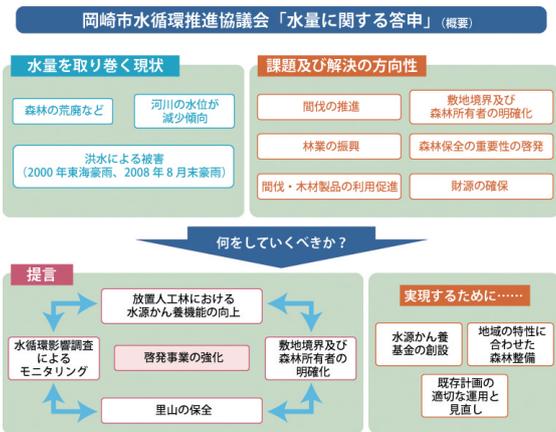
「鍵」その1 決意を形に！ 岡崎市水を守り育む条例

岡崎市では、プランをより強固に推進するため、プランの制定と併せて「岡崎市水を守り育む条例」を定めました。

この条例は、「健全な水循環を確保し、創造するために、水に関する基本理念を定め、市、市民、事業者の責務を明らかにするとともに、水循環総合計画の策定等について必要な事項を定めることにより、水施策の総合的な推進を図り、現在及び将来の市民の健康で快適な生活を確保すること」を目的としています。



岡崎市水循環推進協議会



岡崎市水循環推進協議会の審議の仕組

「鍵」その2 市と市民が連携し自然と人が交流する場を創出

岡崎市では、「人が集い、自然と交流できる場の創出」を市と市民が一体となって進めています。

上流域の「水をはぐくむ豊かな森」では、「水とみどりの森の駅」事業が進められています。

乙川リバーフロント地区では「安全で安心して歩き、楽しめる水辺空間」の整備も進められています。

【森での取組(上流)】

「水とみどりの森の駅」は、豊かな水源の森を守り、未来へつなげていくために、自然体験や保全活動の場として市民が交流する拠点です。

「おかざき自然体験の森」では、市



くらがり溪谷自然観察会



乙川でのキャンプの様子

森づくり体験教室等、季節に応じた様々なプログラムを通じて、自然環境の多様な役割を学ぶことができます。講師の育成もしています。

【川での取組(下流)】

「おとがワンダーランド」は、乙川河川敷の活用の可能性を見出す、実験的なプロジェクトです。

乙川が河川敷地占用許可準則に基づく都市・地域再生等利用区域に指定され、民間の営業活動が可能となったため、ナイトマーケット、河川敷でのキャンプなど、まちの活性化のための河川敷や水上における様々な活動が展開されています。2016年度から始まったこの取組は、年々来場者数や売り上げを伸ばしています。

「鍵」その3
森と地域経済を元気にする活動
〜額田木の駅プロジェクト〜

岡崎市は、面積のおよそ6割が森林です。特に、乙川の上流に位置する額田地域では古くから林業が盛んで、品質の良い木材が高値で取引されてきました。しかし、時代の変化とともに木材の価格は低迷し、森は放置され、土がやせて保水力も落ち、土砂災害や洪水を引き起こす原因となっています。

そこで、森林の再生と地域活性化を目指す活動として、2015年に「額田木の駅プロジェクト」が発足しました。これは、間伐した木材を、通常より少し高く買い取ることで森林整備を推進する仕組みです。



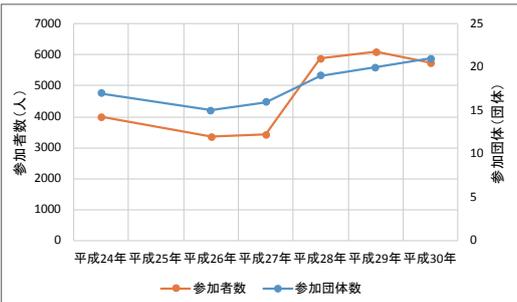
額田木の駅プロジェクト



地域通貨券「森の健康券」



河川愛護活動報奨金を活用した取組



河川愛護活動報奨金制度への参加者数及び参加団体数



おとがワ！ンダーランドのイベント風景

木の駅では、木材の買い取り代金を現金でなく地域通貨「森の健康券」で支払います。山の恵みが通貨となって地元のお店をめぐることによって地域経済の活性化に貢献しています。

「鍵」その4
川をきれいにする活動を支援
〜河川愛護活動報奨金制度〜

河川愛護活動報奨金制度は、地元町内会を中心に組織された10人以上から成る河川愛護団体に、岡崎市が管理する河川の草刈り、ごみ拾い等の活動を実施、報告書を提出してもらい、その活動に対して市が報奨金を支給する制度です。

2002年度から始まったこの制度は、2019年度には、22団体、

延べ6219人が活動に参加し、参加団体、参加者ともに年々増加しています。河川が美しく保たれるようになっただけでなく、地元住民の河川への愛着や関心が生まれました。また、市としても、業者に委託する場合と比べて公費の支出を安く抑えることができています。

活動の果
活動の輪

少しずつ広がる
取組の輪

「河川愛護活動報奨金制度」への参加者数及び参加団体数は徐々に増加傾向にあり、活動の輪が広がっています。地元住民の河川への愛着や関

心が生まれたことも、大きな効果と言えます。また、2016年度から始まった、「おとがワ！ンダーランド」の取組は、来場者数が年々増加し、売り上げも大きく伸びています。プログラム数は若干減少していますが、これは、前年度集客に苦戦したプログラムを見送ったり、複合プログラムに集約されたことによると考えられます。

取組は始まったばかりですが、乙川河川敷の豊かさや魅力を発揮し、水辺空間をより活用するために、様々な工夫がなされています。イベント参加者へのアンケート結果からも、今後の取組継続が期待されていることが伺えます。